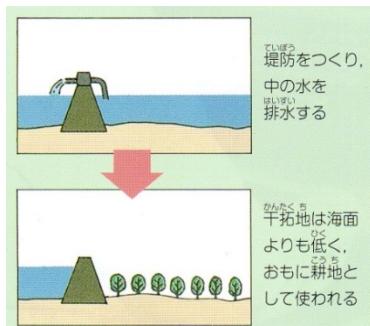
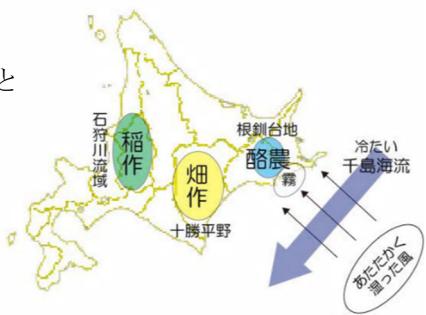


## 田畠を広げるために

山や荒れ地などを切り開いて、田畠をつくること  
を(1…漢字で)といい、こうして開かれたのが、  
酪農がさかんな北海道の(2…?台地)、高冷地  
農業の長野県八ヶ岳のふもとの(3…地名)など  
です。



また、海や湖に堤防をつくり、その内側の  
水を干し上げて新しい土地をつくること  
を(4…漢字で)といいます。  
耕地を増やすために、昔から各地で行われ  
てきました。

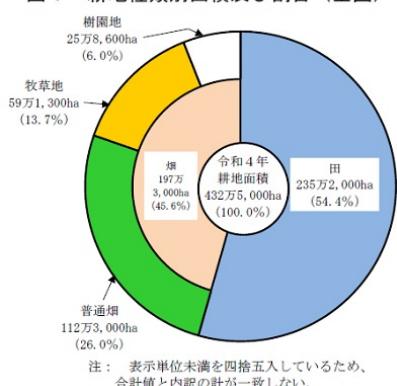
福岡・佐賀などの(5…算用数字で)つの県に  
囲まれた(6…?海)は、遠浅で満ち潮と引き



入れてつくれられ、大きな水田が広がる(9…?村。ひらがな可)があります。

オランダは干拓によって国土が広げられた国です。海面より低い土地が国土の約4分の1もしめています。

図1 耕地種類別面積及び割合(全国)

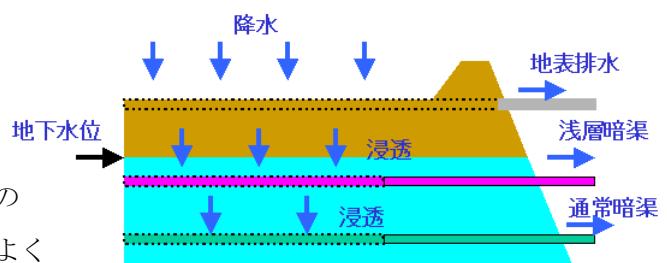


こうした努力によって日本の耕地は  
広げられましたが、それでも国土全体に  
しめる耕地の割合はおよそ12%しか  
ありません。イギリスのそれは71%で、  
フランスは53%もあります。  
日本は、もともと国土全体にしめる平地の  
割合が4分の1しかないので。  
そして、耕地のほとんどは(10)として利用  
されています。

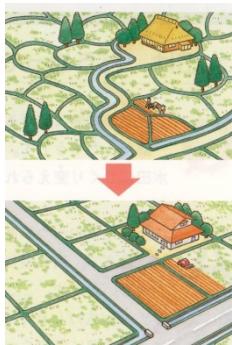
## よい土地にして生産をあげるために

## ①湿田から乾田へ

信濃川の下流など、低地で水はけの悪いところでは、  
一年中じめじめした湿田が見られました。そのため、川の  
流れを分ける分水路や、地下にパイプを通して水はけをよく  
する(11…右図のこと)のしくみを整え、湿田を乾田につくり変える努力がなされました。



## ② 耕地を整える



たはた きょうかい のうどう ようすいり  
田畠の境界や農道・用水路などをまっすぐにして、農業機械を使いやすくすることを(12...)  
漢字で?整理)といいます。

### ③よい土と入れかえる

質のよくない土に、ほかの土地から持ってきたよい土をまぜたり、よい土と入れかえたりして、作物が育ちやすい土地にすることを(13…漢字で)といいます。北海道の(14…?平野)は、この方法によって大きな水田地帯に生まれ変わっています。

## 水不足をなくすために

## ①ため池

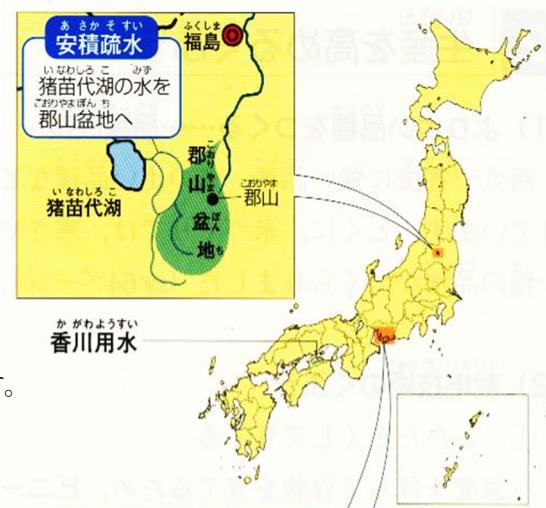
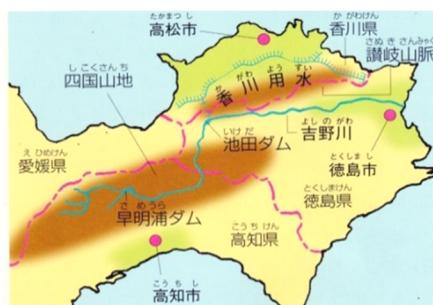
ため池は、雨の少ない瀬戸内海沿岸や内陸部の盆地などでつくられてきました。香川県の(15…漢字で?平野)のため池が有名です。奈良県にも多くのため池がありました。



## ② 用水路

水が不足しがちな地域では、  
川や湖の水を送る用水路が  
つくられています。

いなわしるこ こおりやまほんち  
猪苗代湖の水を郡山盆地へ こうもし  
こうもし  
高知市  
そすい  
引いた福島県の(16…ひらがな可。?疏水)、  
徳島県を流れぞよしのがわ かがわ  
吉野川の水を香川県に送った(17)



## 西から愛明豊(用水)と覚えること

愛知県では、木曽川の水を知多半島に引いた(18…漢字で？用水)、  
矢作川の水を岡崎平野に引いた(19…漢字で？用水)、天竜川の水  
を(20…？川)に流して渥美半島に送る(21…漢字で？用水)などが  
あります。



あつみ ようすいろ でんとう  
渥美半島ではこの用水路を使い、電灯で  
照らすことで開化時期を調節して出荷  
する(22…右の花名)の栽培ができるようにな  
りました。昼の時間が短くなったことを  
感じて花を咲かせる菊の性質を利用したもので





## よりよい品種をつくる

病気や害虫に強い品種や味のよい品種などを開発することを(23)といいます。

寒さや冷害に強い稻の品種がつくられてきました。減反政策をやめた政府は、農家にコスト競争力をつけるために、多くの米の(23)を行っています。



## 栽培技術のくふう

### ①あたたかくして育てる

あたたかい温度を保って作物を育てるためにビニールハウスを使い、野菜や花、稻の苗・高原野菜の苗などを栽培します。こうしたかたちを(24…?栽培)といいます。ほかでは、畑の土を黒いビニールでおおって温度や湿度を保つくふうなどが行われています。

### ②土地の栄養をおぎなう

土地の栄養分をおぎない収穫を増やすために肥料が使われます。

肥料には、自然にあるものを利用した堆肥などの肥料と化学肥料があります。日本は、せまい土地から多くの生産をあげるために多くの化学肥料を使い、人手や手間をかける(25…?農業)です。

これに対して、アメリカのような広い土地で、大型機械やヘリコプターを使って行う農業を(26…?農法)といいます。

近年は堆肥を使った(27…?栽培)によって、ゴミを減らして環境をそこなわないようにする(28…?農業)が広まっています。

しかし、コストがかかることもあって、その広がりには時間がかかっています。



### ③病気や害虫を防ぐ

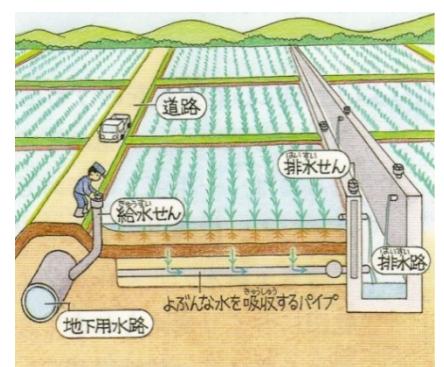
作物の病気や害虫による被害を防ぐために農薬が使われています。

しかし、農薬は土や地下水をよごし、人の健康をそこなうことがあるため、使う農薬の量を減らす減農薬や、農薬を使わない無農薬の作物をつくる努力が行われています。右は(29…?カタカナ)という網でおおったキュウリの畑です。強い風や害虫などを防ぐ工夫がなされているのです。



### ④効率のよい米づくり

一区画の面積を大きくして、大型の農業機械を使えるようにすると農作業の能率が上がります。また、田に水を送るための用水路が地下にうめられている水田もあります。地下のパイプを使うと、水鉄砲のように勢いよく、しかも早く水を入れることができます。



また、稻作<sup>いなさく</sup>は水の管理<sup>かんり</sup>が欠かせません。気温<sup>いね</sup>が低い時期には、稻<sup>いね</sup>を寒さや風から守るために田の水を多くして水位<sup>すい</sup>を上げますが、こうしたことを自動的に調べ、水の出し入れをするしくみも取り入れられています。さらに、農作業<sup>のうさぎょう</sup>の手間<sup>てま</sup>をはぶくために、田に種を直接まく(30)という方法が研究され、少しづつ広まってきています。

## ⑤安全な食べ物を求めて

虫も食べないトウモロコシなどの(31…? 食品)や大量の農薬などの問題で、安全な食品を求める消費者<sup>しょうひしゃ</sup>の気持ち<sup>のうやく</sup>が高まっています。そこで、(32)による土づくりを行い、化学肥料<sup>かがくひりょう</sup>や農薬<sup>のうやく</sup>を使わない(27)に取り組む農家<sup>のうか</sup>が増えています。左下は、こうして作った安全な農産物<sup>のうさんぶつ</sup>につけられる(33…? マーク)です。



このようにしてつくられた農産物<sup>のうさんぶつ</sup>を買うことによって、わたしたちは、環境<sup>かんきょう</sup>を守るための農家の努力<sup>のうえん</sup>を応援<sup>おうえん</sup>することができるのです。  
さらに、食料自給率<sup>しょくりょうじきゅうりつ</sup>を上げるために、地元<sup>じもと</sup>で生産されたものを地元<sup>じもと</sup>で消費するという意味の(34…漢字で)が広まっています。

耕地面積<sup>こうちめいじき</sup>(田畠などの農地の合計)を100としたときの、作付けの面積の割合を表す耕地率(2022)は12.72%で、下の表はこれを都道府県別に見たものです。それぞれの都道府県名を答えなさい。

順位	都道府県名	%
1	(35)	26.8
2	千葉	23.9
3	佐賀	20.8
4	埼玉	19.5
5	栃木	19.0
	…	
11	(36)	14.6
	…	
42	島根	5.4
44	山梨	5.2
44	岐阜	5.2
46	高知	3.7
47	(37)	3.0